



神奈川スパル株式会社



RA SURTEES



# AUTOBACS SUPER GT Round2 富士スピードウェイ 500Km RACE



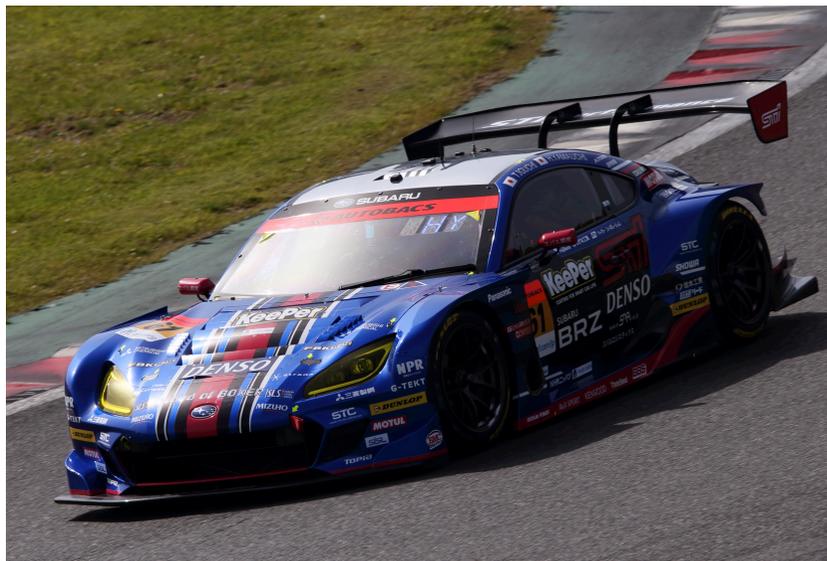


神奈川スバル株式会社



## <公式練習 / 1位>

今回も2種類のタイヤを持込んでいます。タイヤの選択を行いながらセット変更も進めます。走り始めは、ハード側から走行を開始します。BRZは、まず最初にエンジン設定を行うためアウトイン、そしてストレート一回通過してピットに入り、エンジン設定の作業を行います。これは必ず行うルーティン作業。その後に3周計測に入ります。マシンバランスは、セクター2は良いが、セクター3でのリアの薄さがNEWタイヤからあり、少しリアのグリップを高めていきたいところです。その後セットアップを行い。ソフト側でのタイヤで計測に入ります。更にタイムを更新し、練習走行トップタイムを記録しました。そして井口選手と交代し、現状のマシンバランスを確認後、QFシュミレーションを行うため、ソフト側のNewタイヤでアタック。ただFCYが出たため、計測1周は出来なかったが、セクター3までは良いラップだったので、ここで切り上げ、残り時間は決勝のバランス確認を行いました。





神奈川スバル株式会社



## <公式予選 / 1位>

Q1を担当するのは、井口選手。タイヤはソフトタイヤでQ1に挑みます。計測に入り、何の問題も無くトップでQ1を通過。ただクラス分けをされており、自分達はA組、B組の方では、井口選手のタイムを上回るタイムを記録。同じダンロップタイヤを使用するスープラ60号車。ただ予選には大きな自信があったので、不安なく予選に挑みます。Q2を担当するのは自分(山内英輝)です。アタックに入った計測1周目セクター1も抜群に決まり、セクター2まで調子が良かったのですが、前を走る車両がペースを急に落とし、自分もアタックできずでした。その翌周も前との間隔を空けてアタックに入りますが、またセクター3で間隔を空ける車両に引っ掛かってしまいました。ただスリップは、ばっちり使えたので、ギリギリトップタイムを取る事が出来ました。この富士でのポールは、とても嬉しいです。チームが本当に良い車を持って来てくれた事に感謝です。





神奈川パール株式会社



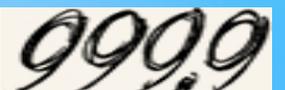
## <決勝 / 2位>

決勝日GWにふさわしい晴模様。朝のフリー走行では、マシンのセットを決勝方向に変更。トラクションを増やしていくセット方向です。今回のレースは、500キロと長いので、決勝のペースがより大事となります。そして今回2回のドライバー交代が義務づけとなっています。スタートを担当するのは自分(山内英輝)。2回目のスティントは、井口選手。そして最後にもう一度自分という流れです。まずは順調にスタートは、ポジションをキープ。すぐにSCが入りますが、大きな影響もなく、再スタート後もトップをキープし、走行を重ねていきます。中盤辺りから、後ろのペースが少し上がり、本当はマージンを作りたいところですが、後ろのペースが速く、トップを守りきるので精一杯でした。残り数周のところ、今期から導入されたFCYが入り、ここでタイミング良くアウトラップの500の車両が、自分と60号車の間に入ってくれた事で、後ろと5秒程のマージンを作る事に成功します。そしてFCYが解除されてから、自分達は38周目にピットインし、井口選手と交代します。ピットで前に出たBSスープラは、想定とおり無交換で数十秒前にいます。そして後ろに55号車のNSX(BSタイヤ) 60号車のスープラ(ダンロップ)。60号車とは、1度目のピットでマージンを作る事ができたのか少しギャップも出来ていました。





神奈川パル株式会社

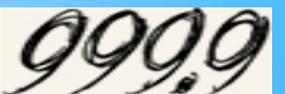


第2ステイント井口選手も懸命に走りますが、55号車と60号車に抜かれポジションダウン。3ステイント目のガス搭載量を出来るだけ減らしたいので、出来るだけ伸ばしていきたい。井口選手は33周目でピットイン。そのタイミングで60号も同時にピットイン。ピット作業にもミス無く送り出してくれますが、60号の前に出る事が出来ず、コースは4番手で復帰します。60号車には、アウトラップで仕掛けますが、前に出ることができず、むしろタイヤが温まるとペースが速く、少しずつ離されてしまう。ただ自分も、他と比べてペースは良く、3番手を走る55号車に追いつき、ダンロップコーナーで仕掛け3番手に浮上。またトップを走る52号スープラが駆動系トラブルのために戦線離脱。これで3台のトップ争いが始まります。60号車のスープラのペースが速く、付いていくので精一杯でしたが、セクター3でミスをし、少し距離が縮まったので、強引に1コーナーのブレーキで仕掛けたのですが、完全には止まりきれず、クロスラインを取られてしまい、前に出る事が出来ませんでした。





神奈川スバル株式会社



ラスト10周は、後ろのNSXも急にペースを取り戻し、何度かストレートで並ばれる展開も続き、抑えながらも前を必死に追いかけてますが、前を捉える事が出来ず2位でチェッカーを受けました。予選の速さを最大限に発揮する事は出来ましたが、決勝では、常に1番速いペースで走る事が出来ず2位。この結果は非常に悔しいです。ただ現状の結果をしっかり受け止め、次戦得意な鈴鹿で優勝目指して頑張りたいと思います。

ただ今まで自分達BRZは、この長距離レースの富士では、いつも上位に入り込むことが出来ず、毎年苦戦していました。そこだけを見ると、今年は長いレースでも強さを証明できたレースでもあったと思います。年間通して常に上位争いを行えるように、シリーズを考えれば、とても今年の戦いが楽しみです。まずは一勝を狙って頑張ります。そして今年の最多ポールポジションを取れるように日々努力していきます。またご声援の方よろしく置くお願い致します。

